

モンゴル国手打ちそば交流の旅について（報告）

7月16日から23日までの8間日程で、全麵協国際交流事業として「モンゴル国バヤンアグト町100周年記念祭参加及びモンゴル料理人協会交流の旅」を募集したところ、全国から40名の会員等が参加しました。モンゴル国との交流は、平成29年に10月に国交樹立45周年記念事業として、ウランバートルで手打ちそば祭りを開催したことから始まり、モンゴル料理人協会及び商工大学等における手打ちそば体験指導等を通じて交流を深めてきました。

この度は、モンゴル国駐日大使の出身地であるボルガン県バヤンアグト町の100周年記念祭に参加し、手打ちそばの実演を披露し、おそばを振舞うとともに、食文化の交流の一環として、フライパン一つで手軽にできる「お好み焼き」も紹介したところ、焼くのが追いつかないほど好評でした。

バヤンアグト町はウランバートル市の北西約400kmのロシア国境に近くに位置した豊かな牧草と湖のある美しい町です。ウランバートル駅から、いわゆるシベリア鉄道の夜行寝台列車に揺られ、車窓を見つめ（午後10時でも明るい）、朝8時過ぎにモンゴル第2の都市であるエルネネトに着き、ここでバスに乗り継ぎ、舗装道路は無くなり、道らしきところを何度も立ち往生？しながら到着したのは夕方でした。

7月18日の夜に行われたバヤンアグト町100周年記念式典では、全麵協から交流記念品を贈り、その活動が紹介されました。

翌19日の記念祭では、そば打ちのための大きなテントを設営していただき、日本から持参した「鯉のぼり」を空高く泳がせ、そば打ち台を3台並べ、デモンストレーションを行い、打ったおそば等を振舞ったところ、大きな人だかりができました。

バヤンアグトの町長さんからは、そば打ちを「芸術」とであると評価していただき、我々が町を去る見送りの挨拶で、日本の全麵協の伝統的なそば打ちを通じて、日本のそば文化に触れることができたことはとても有意義であったと述べられました。

今回のモンゴル交流旅行では、その他にも、ウランバートル近郊でモンゴル国大統領が積極的に進めている植樹事業への参加や戦後旧ソ連によって抑留され、モンゴルで亡くなった日本人約1,700人の墓地を訪問し献花しました。

また、在モンゴル日本国大使館を訪れ、井川原大使と面談し、モンゴル国の遊牧文化等をお聞きするとともに、全麵協のモンゴルとの交流活動に理解を示していただきました。

今回の旅行の参加者は、75歳前後の方がほとんどで、長距離の移動であったことから、モンゴル国の医師等を同行させたところでした。若干体調を崩された方もおられましたが大事には至らず、参加者全員が行く時よりも元気に帰国できたと思います。

(トピック)

バヤンアグト町は、人口3,000人程度の小さな町のため、40人もの団体が宿泊するホテル等はありませんので、3人程度が寝泊まりできるテント（いわゆるゲル）、キッチンテント（調理人付）、食堂テント、トイレテント、シャワーテント等を設置していただきました。

モンゴル国そば文化交流の旅事務局 萩原 敏彦



成田での結団式



シベリア鉄道



バヤンアグト町へ



バヤンアグト町着



100 記念式典



そば打ち会場



慰霊碑



在モンゴル日本大使館



モバイルホテル



モバイルホテル遠景/夜景

